

皆様、おはようございます。

再び集えることは 素晴らしい

友人に再び会えることは 素晴らしい

今までの協力関係の成果を思い出せることは 素晴らしい」

ここまでが私が話すことのできるわずかな日本語です。この美しい日本語で、この場で皆様に再びお目にかかる喜びをお伝えしたかったわけです。

まずはウルソ副大臣にイタリア政府を代表してお越しいただいたことに感謝申し上げます。また日本側の政府代表の方々にも感謝申し上げます。そして UBGをここまで築き上げて下さった福原会長、ザッパ会長、そして JETRO 中富副理事長、イタリア産業総連盟のパオロ・ゼニャ副会長にも感謝申し上げます。

この本には伊日財団の 10年の活動がまとめられています。1999年 2月、ローマのヴィッラ・マダマにて覚書として当時の日本大使、瀬木博基様と私の署名にて伊日財団は生まれました。今日この場に故瀬木大使夫人に同席頂いていることを喜ばしく思います。その時はこのようにイタリアと海外との大きなプロモーションになろうとはとても想像することは出来ませんでした。まさに万華鏡として 800余りの催しを映し出してきました。そしてウンベルト・アニェッリ氏の写真をご覧頂けると思いますが、日本の友である彼の貢献は忘れることができません。アニェッリ氏の尽力により官民の支援を受けることができ、ここ日本でも、英大使、瀬木大使をはじめ、メディアの方々からも支援をいただくことができました。

なぜ日本なのでしょう。古くは 1585年ローマに初の日本外交使節団が到着しました。時は徳川幕府でしたが、その後イタリアへの日本人の訪問はいよいよ活発になっています。日本とイタリアの二国は差異があるものの深いところで相性の良さというものが見出すことが出来ます。それは「美」を愛する心と言えましょうか、それが我々伊日財団のロゴ考える上でのこの上ないソリューションとなりました。イタリアの美の象徴として日本の方もよくご存知のボッティチェリのヴィーナスが、日本のシンボルである日の丸を抱いているこのロゴはとてもポピュラーになってまいりました。この何年かの間には色々催し物をいたしました。特に日本の方から好評だった 3イベントをご紹介します。まずはイタリア国旗の 3色でイルミネーションされた東京タワーです。これは一年続いた日本におけるイタリア年の折のことでした。また東京ミレナリオ、これは丸の内のイルミネーションですが 300万人の日本の方々にお楽しみ頂きました。また空の祝祭は、天皇陛下がお通りになる神聖なスペースで行われました。外国の催しのためにこのスペースが使われたのは初めてだと言われています。こうしたイベントに加えまして 80 以上の博物館から名作を集めたルネサンス展もございました。現在ヴァチカン美術館長を務めるアントニオ・パウルッチが指揮を執った展覧会でもございまして、このような素晴らしい展覧会はそうそう繰り返し出来るものではございません。さらにウンベルト・アニェッリと私は東京の中に何かずっと残る印となるものを残すべきではないかと考えたわけです。そこで生まれたのが汐留のイタリア庭園です。日伊の友情のシンボルとしてどなたでもイタリア庭園を散策していただくことができます。2001年～2002年の日本におけるイタリア

年は成功をおさめただけでなく、その後イタリアが、日本のみならず世界各国で行うプロモーションイベントのモデルとなりました。先ほどウルソ副大臣も話されていました愛知万博では踊るサテュルス像が招聘されました。また 2007年イタリアの春という催し物がありましたし、今回はナポリターノ大統領の来日に合わせまして、日本におけるイタリア 2009が今まさに始まろうとしているわけです。

このようにイタリアと日本のつながりは始まり、今も驚くべきレベルで続いています。ローマ時代の詩人ホラティウスは 2000年前同時代のローマ人のことを、「風のようにだ」と形容しております。つまり、風のように変わりやすいといっているわけです。しかし日本の友人たちとのお付き合いの中では私たちは変わることはありませんでした。我々はこの関係と友情を維持していきます。我々のイベントはその場限りのものではないことを強調したいと思います。今朝ほどの安藤大使のお話を大変喜ばしく拝聴しました。安藤大使が今年ティベリーナ島で開催されました日本文化紹介のイベントなど、非常に興味深く拝見しております。このような形でまた新しく日本からイタリアへ対する文化の紹介がなされることを心から望んでおります。一連の新しいイベントが更にイタリア人の日本に対する相互理解を深めることになるかと思えます。そういった意味で安藤大使にお礼を申し上げますし、伊日財団としましてもこうしたプロジェクトに大変注目しております。またそれを支援していきたいと思っております。

「どうもありがとうございました」